

目標②-1 古語の意味に注意して、文章のおおよその内容を理解することができる。

次のA・Bの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

A

ある日きつねぶだうはたけに入り、赤く熟せしぶだうの高き柵よりすゞなりにさがりたるを見て、
ぶどう畑 多く群がって

これはうまさうじやと、したうちをしてほめたて、幾度となく躍上り踊上りたれどもとどかず。そ
おいしそう 舌なめずり

こできつねがはらをたつて、「ヨシ。なんだこんなものを。ぶだうはすツぱいぞ」
腹を立てて

なんでも手前勝手なものじゃ。自分の思ふ様になればほめる。ならねばそしる。こゝが情の私
自分勝手 非難する 自分の利益だ

とするとところじやゆゑ常に戒めねばならぬぞ。
けを追求する 自分に言い聞かせなければならぬ。

『通俗伊蘇普物語』による

B

王戒、七歳のとき、かつて諸小児と遊び、道辺の李樹、子多くして枝を折れるをみる。諸児
人名 以前に 子どもたち 道端のスモモの木 実 枝が折れ曲がっている 子ども達

競ひ走りてこれを取るも、ただ戒のみ動かず。人これを問へば、答へていはく、「樹、道辺に在りて
王戒

子多し、これ必ず苦李ならん」と。これを取ればまことにしかり。
苦いスモモだろっ 本当に そのとおりであった

『世説新語』による

(1) Aの文章において、きつねが「ぶだうはすっぱいぞ」と言うまでの経過を、次の文章の()に最も適当な現代の言葉を入れて完成させなさい。

- ① きつねは () (を見て、) (と思った。)
- ② きつねはぶどうを () (として、) (した。)
- ③ しかし、ぶどうは () (にあつたため、結局) ()。
- ④ どうしてもぶどうが手に入らないとわかると、きつねは腹を立てて「 ()から食べなくてよかった! 」と言った。

(2) Bの文章において、王戎が「これ必ず苦李ならん」と判断した理由を、次の文章の() ()に最も適当な現代の言葉を入れて完成させなさい。

- ① だれの所有でもない道端のスモモの実は、どんな人でも採ることができる。
- ② そうすると、もしスモモの実が () (のならば、すでに) (はずである。)
- ③ しかし、目の前のスモモの木は枝が折れるくらいに実がたわわになっているが、() ()。
- ④ したがって、このスモモの実は苦くておいしくないのに違いない。

(1) 《解答》

- ① きつねは（赤く熟したぶどう）を見て、（うまそうだ）と思った。
 ② きつねはぶどうを（取ろう・食べよう）として、（とんだりはねたり）した。
 ③ しかし、ぶどうは（高いたなの上）にあったため、結局（届かなかった）。
 ④ どうしてもぶどうが手に入らないとわかると、きつねは腹を立てて「（あのぶどうは酸っぱい）から食べなくてよかった！」と言った。

(2) 《解答》

- ① だれの所有でもない道端のスモモの実は、どんな人でも採ることができる。
 ② そうすると、もしスモモの実が（あまくておいしい）のならば、すでに（だれかが採っている）はずである。
 ③ しかし、目の前のスモモの木は枝が折れるくらいに実がたわわになっているが、（だれも実を採った様子がない。）
 ④ したがって、このスモモの実は苦くておいしくないのに違^{ちが}いない。

《評価のポイント》

- A 古語の意味に注意して、文章のおおよその内容を、文脈に即して論理的に読み取っている。(問一・二ともにほとんどを解答している)
 B 古語の意味に注意して、直接的に描写されていることを読み取っている。(問一のほとんどを解答している)
 C 直接的に描写されているいくつかのことを読み取っている。(問一のいくつかを解答している)